

高校生と連携した「くらしき防災フェア」への出展

岡山県倉敷市

- 人口※ 473,810 人
- 自治会加入率 60%
- 実施時期 令和 5 年度

※令和 6 年 12 月 10 日時点自治体ホームページ掲載情報

取組むことになったきっかけ

平成 30 年 7 月豪雨 により被災した倉敷市が、災害廃棄物処理の課題に取り組む中で、学び合いの実践（市職員から災害ごみについて学んだ生徒が、今度は自ら先生となり地域住民に学びを提供すること）による人材育成のしくみを構築しようと考え、市内の高校生といっしょに考え、実施した取組です。

高校生との連携は、高校の授業で川に捨てられているプラスチックごみの調査と削減対策を研究するため、生徒が市の説明を受けた際に、市の担当者が、災害が起きた場合のごみについて質問を投げかけたことで、生徒たちが疑問を抱き、研究課題へと発展しました。



取組内容

市職員と市内の高校生との協働による、子どもでも楽しく学べる災害ごみの分別ゲームを作成し、「くらしき防災フェア」に出展されました。

あわせて、このゲームのヒントとなるポスターが生徒の手によって作成されました。このポスターは、市職員が生徒に災害ごみの処理について話をする中で、生徒自身が多くの気づきを得たとのことで、そこから、生徒が「自分が感じた気づきをイベントの参加者にも実感していただく」ことをイメージしたものです。



スタッフである生徒たち自らが、ゲームを行った子どもと付き添いの保護者に対して、ポスターを活用して丁寧に説明を行いました。

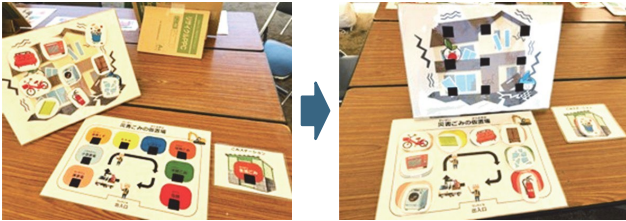
高校生にとっても、自らの知識を深めていく学び合いの実践の場となっていました。



高校生が作成した災害ごみの出し方に関するポスター

災害ごみ分別ゲーム

災害ごみ分別ゲームは、参加者が、災害時にごみとなる量や家具、家電製品等を、仮置場に見立てたシート上の分別区分、可燃物、不燃物、家電等のどこに分類するかを考えて貼り付けます。



災害ごみ分別ゲーム

「ごみの分別なんて簡単だよ！」と言って挑戦した小学生は、普段出している生活ごみの分別とは異なるものばかりで、最初は戸惑っている様子でしたが、スタッフの生徒が子どもの目線に合わせて説明する等、上手く正解へと導くことができました。



スタッフとして対応する生徒

イベントの参加者によるシールアンケートでは、「災害ごみについて関心を持った」、「災害ごみの分別が分かった」の欄に張り付けられるシールが増えていき、その様子を見ていた高校生からは、達成感が伺えました。



「関心を持った」との回答欄にシールを張り付け

「くらしき災害ごみ対策サポーター制度」を開始

災害時のごみの出し方を自主的に学び、地域や周囲の方との会話の中で、災害ごみの正しい知識や情報の輪を広げることで、災害ごみの迅速かつ適正な処理を後押し（サポート）していただける方を登録する制度を創設しました。



自治体の声

「くらしき防災フェア」の一般廃棄物対策課のブースには、数百人の親子が訪れて、主に子どもがゲームにチャレンジし、答えにつまっているところへ高校生スタッフが優しく説明をしました。また、子どもの学びを大人が見守ることで、子どもだけでなく大人も自然と災害ごみについて楽しく学ぶ場となっていました。

参画した生徒にとって単発のイベントで終わらせないようなくみづくりが必要です。そのため、くらしき災害ごみ対策サポーター制度に登録してもらうなど、意識の継続につながる取組を予定しています。

防災フェアを他地区で開催したり、他校との取組みへと広がるよう連携を拡大し、継続的に取り組んでいくことが大切と考えています。

